



「WRC」参戦の足跡

WRC: World Rally Championship // 世界ラリー選手権



日本のチームがWRCでプジョーを走らせる、90年代では夢のようなプロジェクトを実現させるため、YM WORKSは挑戦してきました。

ラリージャパン開催も追い風となり、「プジョーで参戦するチーム」として、多くの方々に認知されるようになりました。決して弊社だけの力で成し遂げられたことではありませんが、これらの参戦によって得られたノウハウは、日々の業務に活かされています。

これからもフィールドを拡大して、YM WORKSの挑戦は続きます。

2005年第2回ラリージャパン。総合44位、A6クラス3位で完走、ポディウムで表彰されるYM WORKS TEAMの206XS Rallye Gr.Aとチームスタッフ。

2006

第3回ラリージャパン。マシンを206RCベースにスイッチし、地元ディーラー、主要取引先のサポートによりA7クラスに参戦する。RCはYMにてホワイトボディ状態までバラされ、バルクヘッド貫通型ロールケージ、MOTEC製エンジンマネジメントを導入。XSでの車輛製作のノウハウを活かしたマシン作りが行われた。XSに比し、圧倒的に増大したパワーで、ポテンシャルの片鱗は見せるものの、SS5にてタイロッドエンドの破損により転倒、時間内修復は不可能と判断し、残念ながらリタイヤとなった。監督はYM中村、クルーは「島田/萱原」組。「熟成」という言葉の意味を考えさせられた参戦。



2005

第2回ラリージャパン。「YM WORKS TEAM」として、地元ディーラー、主要取引先のサポートにより参戦。クルーは昨年に引き続き「島田/北原」組、チーム監督はYM中村。昨年度の雪辱を晴らすべく、206XSを徹底改良し更なるボディの強化とエンジンパワーを得る。多くのSSでFFプライベータートップタイムをマーク、総合44位、A6クラス3位（上位2台はSWIFT Super1600）で念願の完走を果たし、ポディウムに立つ（メイン写真）事となった。マシンの熟成、クルーのコンビネーション、体制化されたピットワークがもたらした結果といえる。ラリーカー製作からマネジメントまで多くのことを学んだ。

2004

WRC日本上陸、第1回ラリージャパン。近鉄パファローズの支援によりYM主体の「Team Buffaloes COTTON FACTORY」として参戦。206XSベースのGr.A規定車輛をYMの手により一から製作。序盤から快調なペースで走行するも、SS5にてリアマウントの破損によりリタイヤ。スーパーラリー方式によりLEG2より復活、完走を果たす。大阪ドームでのプレス発表では「梨田監督」の激励を受け、ABC放送「クイズ!紳助くん」の密着取材（なにわ突撃隊もスタッフ参加、10/4 OA）も行われるなど、話題に事欠かない参戦となった。「Tipo」でも大きく報じられる。クルーは「島田 勝正/北原 寛典」。



2001

43回サンレモラリー。地元イタリア警察チームとのコラボにより306S16による参戦でチーム名は「Team FINA COTTON FACTORY Scuderia Polizia」。落ち葉と濃霧に見舞われたSSが多く、リタイヤ続出の中、堅実な走りで総合36位、クラス7位完走を果たす。雑誌「Tipo」も同行密着取材、誌面でも大々的に取り上げられた。クルーはイタリア警察官選手権でも屈指の凄腕、「Davide Giordano/Ezio Sichi」組。この時は運営は現地チームが中心でマネジメントとしての参戦ではあったが、ここでの経験が後のラリージャパン参戦に役立つこととなる。